

國學院大學図書館研修報告

昭和六十三年四月から十一月にわたって行われた館員の研修に
関しては、次の六つに分類される。

1 夏期休暇中に、館員全体を対象に実施する全体研修と各課
研修

2 第五十四回 IFLA (International Federation of Library
Associations and Institutions) 世界大会への参加

3 第七十四回全国図書館大会への参加

4 他大学図書館施設設備の視察

5 第十一回図書館建築研修会への参加

6 私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会への参加
ここでは、以上の点についての概略を述べ、研修報告とする。

1 全体研修と各課研修

夏期休暇中に実施された研修は、出納手を除いた館員全体が参
加した全体研修と、各課が独自で行う各課研修の二つで構成され

た。

日程とテーマは左記のとおり。

◎ 全体研修

実施日 九月十二日(月)

第一部『図書館海外事情』

「アメリカ・カナダ大学事情」……………報告 増田尚武

「IFLA世界大会参加報告」……………報告 木野主計

第二部『本学図書館の近未来像』各課の構想

総務課・調査課・整理課(和書)・整理課(洋書)・閲
覧課・新石川校舎図書室

◎ 各課研修

○ 調査課

実施日 七月二十二日(金) 実施場所 埼玉県製紙

工業試験場

昭和六十三年年度図書館研修委員会

テーマ 『貴重書の管理について』

○ 整 理 課 (和書)

実施日 七月二十五日 (月)

テーマ 『目録の編成について』

○ 整 理 課 (洋書)

実施日 七月二十日 (水)

テーマ 『ビブリオフィール導入後の洋書整理業務の

変革について』

○ 閲 覧 課 (出納手)

実施日 八月五日 (金)

テーマ 『日常業務の再検討』

全体研修の第一部の増田課長の報告は、この夏アメリカとカナダの教育視察研修旅行に参加したので、その両国の教育制度や事情についての報告であった。特に、ニューヨーク州の教育制度や教育現場の状況については詳しく論述された。

木野主幹の報告については、次の項で述べるので割愛する。

第二部のテーマは、『本学図書館の近未来像』として、図書館業務の機械化を視座に入れながら、二、三年先に各課の業務はどう変化していくか、どう改善していかなければならないかについて論議した。各課の構想は次のとおり。

① 総 務 課

選書・受入業務に関して、オンラインシステムとCD・ROMの方法を検討したが、現時点では、機械導入を図っても円滑に作動するとは考えられないので、次の三点の改善策を提起し

た。i 選書方式を、現在の見計らい方式から新刊情報紙(誌)

による選書に変更。ii 指定出版社の増加。iii 選書基準の成文化。

② 調 査 課

多くの人の利用に供するようにマイクロ資料の利用方法を改善し、また貴重図書の展示会を積極的に開催し、解題目録の作成に努める。

③ 整 理 課 (和書)

排列規則の矛盾や不整合性を洗い直して、新しい排列マニュアルを作成するために、現在使用している『排列規則』の「総則」「書名目録」「著者名目録(個人著者)」を検討した。また中文図書については機械入力の方法で整理を始めたので、その経過と現状が報告された。

④ 整 理 課 (洋書)

近々導入する予定のビブリオフィールによって、業務の流れがどのように変わるか、またこのシステムの活用方法などについて報告された。

⑤ 閲 覧 課

入退館の機械化を企図して、BDS (Book Detection System)の導入について、また書庫の狭隘化の早期解決の必要性などについて報告された。

⑥ 新石川校舎図書室

将来の図書館の資料構成を考えると、AV資料はかなり重要な要素になると予想されるので、その運用について検討した。二、三年後は、教養部図書館としての機能を果たす立場で運営

されているであろう。五十万冊の基礎的資料を所蔵し、センサー・コントロールによる三十万五千席のAV個人ブースを設備して、利用者の要求に応じていきたいと報告された。

各課研修は、各課の抱えている問題点や関心事について各課単位で行うものである。今年度は、前述したように四つの部署で研修が実施された。

① 調査課

貴重書（特に重要文化財指定資料）の補修、保存について考えることを目的として、埼玉県製紙工業試験場を見学した。和紙の歴史や製造方法などについて説明を受けたあと、紙を漉く実習も行い、和紙に対するさらに深い知識が得られた。

② 閲覧課（出納手）

図書を受け入れから配架までのルーティンワークの説明と自由討論を行った。

（整理課和書係と洋書係の研修は、全体研修で発表するためのものなので省略する）

2 第五十四回IFLA世界大会参加報告

オーストラリアのシドニー市にあるニュー・サウス・ウェールズ（New South Wales）大学で、八月二十七日から九月三日まで開催されたこの大会には、林 陸朗図書館長と木野主計主幹が参加した。

IFLA大会の研究テーマは、『市民・図書館・情報の共同利用』であって、コア・プログラムとしては、従来の、①図書の保存、②世界出版物入手計画、③世界書誌調整計画の三つのほかに、④世界データ・フローと電子通信計画（Universal Dataflow and Telecommunication II UDT）が追加された。

総会や全体会議が行われたあと、八月三十一日から四十の部会が順次開催された。林、木野は主に「大学図書館部会」に参加した。大会最終日の九月三日には各部会の討論の経過が報告された。

このIFLA大会に参加して木野主幹は、「情報ネットワーク・システムによって、・・・強力な国際的統合が生まれている現在、本学図書館としては、世界で主要なデータベースのネットワーク（例えば、OCLC、UTLASなど）へのアクセスを早急に検討することが必要であり、また本学図書館の情報ネットの組織化を目指す、制度的枠組みを構築することが焦眉の急である」と報告した。

3 第七十四回全国図書館大会参加報告

十月二十六日から二十八日の日程で東京の多摩市で開催された全国図書館大会（日本図書館協会主催）には、増田閲覧課長が参加した。

大会一日目は開会式と全体会が、二日目は十三の分科会がもたれた。増田が参加したのは第七分科会で、メインテーマは『これからの書誌情報の問題点』であった。この分科会では、第一部と

して『書誌情報のコンピュータ化がもたらす図書館の変革』と題して、「図書館業務のシステム化」、「コンピュータ・システムの進展」、「大学図書館における書誌情報の機械化」の三つの発表が行われた。第二部として『オンライン書誌情報ネットワーク構築における問題点』と題して、「日本における共同典拠コントロール問題の所在」、「都立中央図書館和書の場合」、「実用的な書誌情報の構築について」、「学術情報センター目録所在情報システムにおける書誌コントロールの現状」の発表があった。

4 他大学図書館施設設備の視察

本学図書館の老朽化、書庫の狭隘化、新石川校舎を含めたキャンパスの再編成などの一連の動きのなかで、新図書館建設の計画案が浮上してきた。このような状況のなかで、他大学図書館の機構や機械化の実状などを学んで、それらの情報を新図書館建設の際に役立てることを目的として、昭和六十二年七月から昭和六十三年十一月にわたって、計五回の他大学図書館の見学が実施された。見学場所、見学日、参加者は左記のとおり。

① 関西大学図書館、大阪工業大学図書館、羽衣学園短期大学図書館

・昭和六十二年七月三日

・林 陸朗、加藤貞敏、林 利久

② 法政大学多摩校舎図書館

・昭和六十二年七月六日

・木野主計

③ 金城学院大学図書館、南山大学図書館、中京大学図書館

・昭和六十二年十月二十六日～二十七日

・木野主計、清水弘視、矢沢敏司

④ 大谷大学図書館、京都産業大学図書館、龍谷大学図書館

・昭和六十二年十一月二十四日～二十五日

・小林弘邦、長谷川潔、篠田みつ

⑤ 同志社大学田辺キャンパス図書館、姫路独協大学図書館

・昭和六十三年十一月十七日～十八日

・増田尚武、東山陽光

5 第十一回図書館建築研修会への参加

この研修会は日本図書館協会の主催で開かれ、実際の企画は同協会の施設委員が担当している。今回は十一月十一日～十二日の二日間にわたって日本図書館協会で行われ、木野主幹が参加した。テーマは『ニューメディアと図書館施設』と題して、情報化社会における図書館の機能について、特にニューメディアの図書館サービスに対するインパクトを中心に概観し、そしてこれらの要因が図書館施設に与える影響について研修した。

第一日目は講演会が開催された。そこでは、総論のあとに、わが国の事例報告として、①ニューメディアの提供、②ニューメディアの利用、の二つの発表があり、また海外事例報告として、①米国の場合、②英国の場合、の二つの報告があった。第二日目は、

世田谷区立中央図書館を見学した。

ところで、昨年（昭和六十二年）開催された第十回の図書館建築研修会にも、本学から木野が参加した。その報告書は九十ページの小冊子に編集され、日本図書館協会から刊行された。その内容は、①米国の最新事例 米図書館建築事例紹介、②キャンパスにおける大学図書館の設置ならびに規模計画、③大学図書館のAV部門について、などとなっている。

6 私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会への参加

研究分科会に参加している館員と分科会名は次のとおり。

- ① レファレンス研究分科会 清水 弘視 ※ただし、六月までは、林 利久が参加。
- ② 事務能率研究分科会 大和 博幸
- ③ 資料組織研究分科会 古山 悟由

以上が図書館における主要な研修活動の要旨である。そのほか一日だけの出張研修などを加えると、かなりの研修が実施されたことになるが、紙数の関係で割愛せざるを得なかった。

國學院大學図書館貴重図書資料管理例規

第一条 國學院大學図書館は、この例規に基づいて貴重図書資料を収集、保管し、学術研究を目的とする利用に供するものとする。

第二条 貴重図書資料の収集は、この例規の定める基準により館長が図書館委員会に諮ってこれを決定する。

第三条 貴重図書資料基準例規

一 日本（和書）

- (イ) 写本は元和以前の資料
- (ロ) 整版は元禄以前の刊行資料
- (ハ) 名家手沢本（含、名家旧蔵書及び本学有名教授）
- (ニ) 名家自筆本

二 中国・朝鮮（漢籍・朝鮮本）

- (イ) 清・康熙（一六六二）以前の写本及び刊本
- (ロ) 李朝古版本及び古活字本

三 西洋（洋書）

- (イ) 一八五〇年以前出版の資料及び特別稀覯本
- (ロ) 名家自筆の稿本及び書簡類

四 大学関係資料

- (イ) 博士論文
- (ロ) 大学創立関係資料
- (ハ) 大学関係重要文書・記録類